

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」の実施状況  
(京都市立病院)

評価結果案	該当項目数
○=実施又は達成	33
△=一部実施又は一部達成	4
×=未実施又は未達成	5
計	42

うち6項目については、  
関連する年次ごとの「数  
値目標」(計21項目。達  
成状況は資料3-1参  
照)を掲載

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
2	事業運営の目標			
	(1)	市民の皆様に親しまれ、愛され、信頼される病院を目指して		
	ア	医療機能の維持・向上		
1		計画的に医療機器の整備・充実を図り、医療機能の維持・向上に努めます。	平成21年度に取得した主な医療機器 ・全身用コンピュータ断層撮影装置（64列CT）（2台のうち1台の更新） 144百万円 ・血管造影エックス線撮影装置（アンギオ）（2台のうち1台の更新） 133百万円  平成21年度の医療機器購入額 433百万円（過去5年間の平均376百万円）	○
2		「地域医療支援病院」の早期承認を目指して、紹介率・逆紹介率の向上や地域の医療機関との連携に取り組みます。	地域医療支援病院の承認（市内5番目、府内8番目） ・平成21年9月1日  紹介率・逆紹介率の向上 ・紹介率 年度目標 41.7%→実績 42.2%（◎41.3%） ・逆紹介率 年度目標 63.0%→実績 68.0%（◎64.0%） （逆紹介率は23年度目標を前倒しで達成）  地域の医療機関との連携 ・登録医数 20年度末 30人→21年度末 66人（22年8月10日現在118人） ・入院病床の共同利用実績 5件 ・高額医療機器共同利用 283件 ・研修会 33回820人参加	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
3	イ 医療技術の向上	医療技術の向上のため、医師等の学会や研修会への参加、院内研修会の実施を積極的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度 医師の学会出張に係る1人平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> <li>常勤医師 4.8回/人 (399回/83人)</li> <li>専攻医 2.1回/人 (96回/45人)</li> <li>臨床研修医 0.8回/人 (23回/28人)</li> <li>合計 3.3回/人 (518回/156人)</li> </ul> </li> <li>(平成19年度 481回 平成20年度 473回)</li> <li>平成21年度 医療に係る安全管理のための院内研修 30回 (平成20年度 15回)</li> </ul>	○
		職員の専門性を高めるため、専門医、指導医、認定看護師、癌化学療法専門薬剤師、医学物理士（放射線治療）、細胞検査士等、各種の資格取得や認定を受けられるよう取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度 市立病院が位置づけられている認定研修施設等 49件</li> <li>平成21年度 認定医等の資格取得支援（医師の学会出張延べ人数） 合計518人</li> <li>平成21年度 有資格者在籍数 <ul style="list-style-type: none"> <li>専門医 (45人)</li> <li>指導医 (34人)</li> <li>認定看護師 (6人)</li> <li>がん薬物療法認定薬剤師 (1人)</li> <li>(癌化学療法専門薬剤師が平成21年度に名称変更)</li> <li>医学物理士 (1人)</li> <li>細胞検査士 (4人)</li> </ul> </li> </ul>	○
4				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
5	ウ 市民ニーズへの対応	<p>これまでから、「女性総合外来」、「SARS 対応」、「男性専門外来」、「セカンドオピニオン外来」、「緩和ケア外来」等、市民ニーズへの的確な対応を図ってきており、今後とも、関係部局・関係機関との連携を図りながら、常に迅速かつ適切な課題への対応を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門外来の実績（21年度） <ul style="list-style-type: none"> <li>女性総合外来 158件</li> <li>男性専門外来 30件</li> <li>セカンドオピニオン外来 14件</li> <li>緩和ケア外来 7件</li> </ul> </li> <li>・平成21年度に、新型インフルエンザが日本を含む世界各地で感染が拡大した際には、市民の安全・安心を守るため、国内初の新型インフルエンザ患者が発生した平成21年5月16日に、直ちに24時間体制の「発熱外来」を設置して以降、積極的に新型インフルエンザ患者を受入れ、京都市域における中心的役割を果たしてきた。</li> <li>・市内には最大で6箇所が発熱外来が設置されたが、同年6月末までの市内の受診者数1,539人のうち、76.7%に当たる1,181人が市立病院に集中した（※市立病院での平成21年度におけるインフルエンザ診療数 5,366人）。</li> <li>・市立病院での新型インフルエンザ入院者数 計82人</li> </ul>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
6	エ 患者サービスの向上	ユニバーサルデザインの考え方に基づく環境づくりや、職員の接遇・対応の一層の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月）ユニバーサルデザインの採用による療養環境の向上を図ることを契約条項に盛り込んだ。</li> <li>・外部講師を招いて接遇研修を実施した。（平成21年10月15日実施）</li> <li>・御意見箱を設置し、いただいた御意見から改善を実施するとともに、回答・公表を行っている。主な改善は、次のとおり。</li> <li>① 市立病院前のバス乗り場の石垣を低くすることで、歩道を走る自転車から、待合い椅子に座る人が見えるように改善し、事故の危険性を減らした。</li> <li>② 京阪交通のバスの時刻表を設置した。</li> <li>③ 北館のエレベータの揺れを解消するための工事を行った。</li> <li>④ 院内のトイレの衛生環境向上のため、自動水栓の導入を進め、全119箇所のうち53箇所（約45%）の導入を完了した。</li> <li>⑤ 防犯カメラを8台増設した(25台→33台)。</li> <li>⑥ 民間の絵画サークルを利用し院内の絵画を定期的に交換するようにした。（本館2階外来、本館2階業務用エレベータ前）</li> <li>⑦ クレジットカードでの支払の整備を進めた。</li> </ul>	○

大項目	中項目	具 体 的 取 組 事 項	平成21年度の実績	評価案																																										
7		<p>入院患者への定期的なアンケートの実施等により、患者サービスの向上の取組を評価し、必要な改善策を講じることで、患者満足度を高めます。</p>	<p>&lt;患者満足度アンケート調査&gt;  <b>入院</b>            平均点 (5点満点)</p> <table border="1" data-bbox="1332 288 1825 520"> <thead> <tr> <th></th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院生活</td> <td>3.86</td> <td>3.93</td> </tr> <tr> <td>食 事</td> <td>3.76</td> <td>3.79</td> </tr> <tr> <td>説 明</td> <td>4.07</td> <td>4.18</td> </tr> <tr> <td>職員の対応</td> <td>4.32</td> <td>4.37</td> </tr> <tr> <td>身だしなみ</td> <td>4.51</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>診療・看護内容</td> <td>—</td> <td>4.57</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>外来</b></p> <table border="1" data-bbox="1332 612 1968 823"> <thead> <tr> <th></th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待ち時間「長い」</td> <td>32%</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>診療への評価「満足」「やや満足」</td> <td>71%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>職員の対応「満足」「やや満足」</td> <td>70%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>職員の対応満足度(5点満点)</td> <td>—</td> <td>4.4点</td> </tr> <tr> <td>院内の清潔感「清潔」「大体清潔」</td> <td>83%</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>家族に勧められるか「勧める」</td> <td>75%</td> <td>74%</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;診療待ち時間調査アンケート&gt;            平均待ち時間 (加重平均)            平成21年 5月 予約あり52.5分 予約なし79.9分            平成21年10月 予約あり53.8分 予約なし88.3分</p>		20年度	21年度	入院生活	3.86	3.93	食 事	3.76	3.79	説 明	4.07	4.18	職員の対応	4.32	4.37	身だしなみ	4.51	—	診療・看護内容	—	4.57		20年度	21年度	待ち時間「長い」	32%	39%	診療への評価「満足」「やや満足」	71%	—	職員の対応「満足」「やや満足」	70%	—	職員の対応満足度(5点満点)	—	4.4点	院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	83%	81%	家族に勧められるか「勧める」	75%	74%	<p>△            (入院○            外来×)</p>
	20年度	21年度																																												
入院生活	3.86	3.93																																												
食 事	3.76	3.79																																												
説 明	4.07	4.18																																												
職員の対応	4.32	4.37																																												
身だしなみ	4.51	—																																												
診療・看護内容	—	4.57																																												
	20年度	21年度																																												
待ち時間「長い」	32%	39%																																												
診療への評価「満足」「やや満足」	71%	—																																												
職員の対応「満足」「やや満足」	70%	—																																												
職員の対応満足度(5点満点)	—	4.4点																																												
院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	83%	81%																																												
家族に勧められるか「勧める」	75%	74%																																												

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
8	オ	職員のモチベーションの向上		
		職員にとって働き甲斐があり，満足度の高い職場づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御意見箱に寄せられた意見のうち職員等への感謝の意見 38件（平成21年度）</li> <li>・（財）日本医療機能評価機構が行う病院機能評価（平成21年11月）を受審し，全246項目中87%の項目で，5段階評価で4以上の評価を得た。</li> <li>・医師における副部長ポストの新設（平成21年5月）</li> <li>・医師における地域手当の段階的引き上げ（一般職員10%） 平成19年度 12%，平成20年度 13% 平成21年度 14%</li> <li>・医師，看護師等の学会出張への参加</li> <li>・医療安全管理研修会等の研修会を開催（内容については概ね好評である。）</li> <li>・最新の医療機器の導入</li> </ul>	○
9	カ	病院機能評価の受審（更新）		
		平成21年度における「病院機能評価」の認定の更新を目指し，継続的に改善を行います。	<p>平成22年2月9日に認定更新  認定期間：平成22年1月14日から平成27年1月23日</p> <p>全246項目中5段階評価で4以上の評価を得た評価項目の割合  平成16年度 56%→平成21年度 87%</p> <p>評価5の判定を受けた項目（16年度0項目→21年度2項目）  医療機器の管理体制が確立している。  医療機器管理機能が適切に発揮されている。</p>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(2) 安全で安心できる市民生活を支える医療提供				
10	ア	医療安全推進の取組		
		<p>これまでから、医療事故に係る公表基準の策定や複数の専従・専任安全マネジャーの配置、医療安全管理委員会活動の強化等、医療安全管理体制の再点検と改善に取り組んできており、今後とも、引き続き職員一丸となって、市民の皆様の期待に応えられる安全な医療の提供に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全管理委員会の開催（毎月3回）</li> <li>・「医療安全管理マニュアル」第5版発行（平成21年5月）</li> <li>・「京都市立病院スタッフハンドブック」第4版発行（平成21年7月）</li> <li>・医療安全掲示板に「共有すべき医療事故情報」毎月掲示</li> <li>・医療安全管理研修会 29回実施</li> <li>・モーニング・カンファレンス、ランチオンセミナー実施</li> <li>・アクシデントの件数 20年度 31件→21年度 32件</li> </ul>	○
11	イ	院内感染防止対策		
		<p>感染防止委員会の着実な実施や、MRSA対策をはじめとする院内感染防止対策マニュアルの徹底、研修会の実施等の取組を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度感染防止委員会開催実績 計12回</li> <li>・感染症内科部長をリーダーとする「感染制御チーム」（ICT）の活動を通じて、感染状況の把握に努めるとともに、病院各部門への指導や啓発を強化している。</li> <li>＜平成21年度の活動＞ 院内ラウンド（週2回） 院内ミーティング（月2回） 院内研修会の開催（ICT主催6回） など</li> </ul>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(3) 自治体病院としての政策医療の機能強化				
12	ア 新型感染症対策	<p>新型インフルエンザの流行時には、他の医療機関との協力のもとに市立病院全体で対応することを既に表明しており、市内で唯一の感染症指定医療機関としての責務を果たします。</p>	<p>平成21年度に、新型インフルエンザが日本を含む世界各地で感染が拡大した際には、市民の安全・安心を守るため、国内初の新型インフルエンザ患者が発生した平成21年5月16日に、直ちに24時間体制の「発熱外来」を設置して以降、積極的に新型インフルエンザ患者を受入れ、京都市域における中心的役割を果たしてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院長以下の関係部門の責任者で構成する「市立病院新型インフルエンザ緊急対策委員会」を設置した（計26回開催）。</li> <li>・市内には最大で6箇所が発熱外来が設置されたが、同年6月末までの市内の受診者数1,539人のうち、76.7%に当たる1,181人が市立病院に集中した（※市立病院での平成21年度におけるインフルエンザ診療数 5,366人）。</li> <li>・市立病院でのインフルエンザ入院者数 計82人</li> <li>・市民の感染防止及び健康管理の確立と合理的な予防接種業務推進を図るため、「ワクチン接種小委員会」を設置し（計14回開催）、国が策定した優先接種対象者順位に基づいてワクチンを接種した。</li> <li>・京都府・京都市新型インフルエンザ対策専門家会議に当院医師2名が参加し、「京都府・京都市新型インフルエンザ対策ガイドライン」の策定等に寄与した。</li> <li>・新型インフルエンザの発生に伴い、その減収補てんに係る一般会計補助金（76,000千円）を繰り入れた。</li> </ul>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																					
13	イ	大規模災害・事故対策																							
		大規模災害・事故の発生に備え、多数の患者を収容できるホールや災害時緊急医療機器の整備を行うとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）を組織し、各種の訓練に積極的に参加するなど、災害拠点病院としての役割を果たします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月）</li> <li>○施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との設計協議や、準備工事を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急室の面積を4倍に拡張</li> <li>・ヘリポート設置、新館は免震構造</li> </ul> </li> <li>○平成21年9月1日 平成21年度京都市総合防災訓練に参加。</li> <li>○人工呼吸器の増設（20年度 19台→21年度 25台）</li> </ul>	○																					
14	ウ	救急医療への対応																							
		関係機関との連携・役割分担を踏まえ、より多くの救急搬送を受け入れるとともに、引き続き、救急患者が入院を必要とする場合にも円滑に対応できるよう取り組むなど、自治体病院としての責務を果たします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急患者数は目標を達成した。</li> <li>・救急車受入件数は、過去最高を達成したが、プランの目標までは届かなかった。</li> </ul> <p>課題 救急車受入件数増加のため、受入れの断り率（21年度14.3%）を更に低下させる必要がある。</p>	△ 救急患者数○ 救急車受入件数×																					
		<数値目標>																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="2">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>19,123人</td> <td>22,495人</td> <td>23,234人</td> <td>○</td> <td>これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。</td> </tr> <tr> <td>救急車受入件数</td> <td>2,786件</td> <td>3,231件</td> <td>3,095件</td> <td>▲</td> <td>原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度		差引 (21実績-21目標)	説明	数値目標	実績	達成状況	救急患者数	19,123人	22,495人	23,234人	○	これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。	救急車受入件数	2,786件	3,231件	3,095件	▲	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。		
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明																			
		数値目標	実績	達成状況																					
救急患者数	19,123人	22,495人	23,234人	○	これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。																				
救急車受入件数	2,786件	3,231件	3,095件	▲	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。																				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																						
15	エ 地域周産期母子医療センターとしての対応	地域周産期母子医療センターとして、関係機関との役割分担を踏まえ、合併症妊娠分娩やハイリスク妊娠に対しても、院内の小児科や関係各科の医師との緊密な連携のもと、母子とも安全な分娩管理を行い、他の医療機関からの母体搬送も受け入れることにより、自治体病院としての責務を果たします。	<p>&lt;平成21年度の主なハイリスク分娩&gt; 帝王切開82件（うち緊急帝王切開51件）、 切迫早産48件</p> <p>&lt;平成21年度の母胎搬送の救急受け入れ実績&gt; 受入55件</p>	○																						
		<b>(4) 京都市の中核病院としての機能</b>																								
16	ア 地域医療連携の推進	市立病院の高額医療機器や入院病床の共同利用、地域医療フォーラム等の取組を積極的に展開してきており、今後、更に病診連携・病病連携に取り組む、紹介率・逆紹介率の向上を図ります。	<p>入院病床の共同利用 平成21年度 5件</p> <p>地域医療フォーラム 2回実施 （平成21年9月26日 115人） （平成22年2月26日 89人）</p> <p>地域医療従事者に対する研修会・カンファレンスの実施（各診療科等が主催） 平成21年度 33回実施，820人参加</p>	○																						
		地域医療支援病院の早期承認を目指します。	<p>地域医療支援病院の承認（再掲） ・平成21年9月1日</p>	○																						
17	ア 地域医療連携の推進	<数値目標>																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">増減理由</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>41.3%</td> <td>41.7%</td> <td>42.2%</td> <td>○</td> <td>0.5%</td> <td>事前予約夜間受付の開始(H20.10~)</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>64.0%</td> <td>63.0%</td> <td>68.0%</td> <td>◎</td> <td>5.0%</td> <td>平成23年度の目標(14.6日)を前倒しで達成</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由	数値目標	実績	達成状況	紹介率	41.3%	41.7%	42.2%	○	0.5%	事前予約夜間受付の開始(H20.10~)	逆紹介率	64.0%	63.0%	68.0%	◎	5.0%	平成23年度の目標(14.6日)を前倒しで達成
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由																				
		数値目標	実績	達成状況																						
紹介率	41.3%	41.7%	42.2%	○	0.5%	事前予約夜間受付の開始(H20.10~)																				
逆紹介率	64.0%	63.0%	68.0%	◎	5.0%	平成23年度の目標(14.6日)を前倒しで達成																				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																						
18	イ 地域がん診療連携拠点病院としての機能	平成20年3月の「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件の見直しに伴い、新たな指定要件による指定更新に対応できるよう、専門知識を有した医師・看護師等の計画的育成や地域の医療機関への支援に積極的に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定更新審査（平成21年10月）</li> <li>指定更新（平成22年4月～平成26年3月）</li> <li>外来化学療法センターに平成22年1月から日本腫瘍学会及び日本化学療法学会の認定指導医が専従</li> <li>化学療法 入院2,068件 外来2,264件</li> <li>がん相談支援 1,759件</li> <li>院内がん登録 934症例（平成21年） 地域がん登録 887症例（ 〃 ）</li> <li>更新した最新のリニアックの稼働（平成21年8月）</li> <li>「みぶなの会」毎月1回開催</li> <li>緩和ケア研修会（平成21年4月） 25名参加</li> <li>がん支援相談員基礎研修受講 基礎研修（1）終了者 3人 基礎研修（2）終了者 3人 基礎研修（3）終了者 1人</li> </ul> <p>※ 指定更新の要件は、下線部分及びがんクリニカルパスの実施の三つのうち二つ以上を実施していることが必要であった。</p> <p>&lt;看護師の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん放射線療法認定看護師教育課程の受講 平成21年9月～平成22年3月 京都府看護協会主催の教育修了 平成22年7月 認定許可（1名）</li> <li>緩和ケアエキスパート研修会 平成21年12月～平成22年6月 かんわ療法委員会主催の研修会を修了 看護師30人</li> </ul>	○																						
		<数値目標>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規がん患者数</td> <td>893人</td> <td>933人</td> <td>953人</td> <td>○</td> <td>20人</td> <td>地域医療連携の強化</td> </tr> <tr> <td>がん治療延べ件数</td> <td>2,413件</td> <td>2,654件</td> <td>2,421件</td> <td>▲</td> <td>△ 233件</td> <td>新規登録がん患者数は増加しているが、化学療法の実施件数の減少により、がん治療延べ件数は減少</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明	数値目標	実績	達成状況	新規がん患者数	893人	933人	953人	○	20人	地域医療連携の強化	がん治療延べ件数	2,413件	2,654件	2,421件	▲	△ 233件
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度				差引 (21実績-21目標)	説明																			
		数値目標	実績	達成状況																						
新規がん患者数	893人	933人	953人	○	20人	地域医療連携の強化																				
がん治療延べ件数	2,413件	2,654件	2,421件	▲	△ 233件	新規登録がん患者数は増加しているが、化学療法の実施件数の減少により、がん治療延べ件数は減少																				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(5) 病院運営の改善				
19	ア	PFI手法による整備運営事業の実施		
		耐震性等に課題がある北館の改築及び本館の改修と、施設の管理、医療周辺業務等の運営業務をPFI手法により実施することとして、現在、入札に向けた手続を進めているところであり、今後とも、この手法によりサービスの質の維持・向上に努めながら、施設整備や管理運営コストを最小化します。	○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○現在、施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との基本設計協議や、準備工事に着手	○
20	イ	経営改善の取組		
		平成22年度末に累積赤字を解消するという目標を達成するとともに、以下の「経営計画」に示す、新たな数値目標を設定し、更なる経営改善に取り組めます。	平成21年度末に、前倒しで累積赤字を解消した。 20年度末 △130百万円 21年度末 48百万円	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績			評価案																																				
3	経営計画																																									
	(2) 新たな中期財政運営目標																																									
21	ア 入院	平均在院日数の短縮と病床利用率の向上を図ることにより、より多くの患者の受入れと診療報酬のアップを目指します。	<p>実患者数は、過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標を下回った。また、平均在院日数は、プランの最終年度の目標値14.6日以上に短縮することになり、目標を達成した。</p> <p>しかし、平均在院日数は大幅に短縮したため、病床利用率、延べ入院患者数は目標を下回った。診療報酬単価については20年度を上回ったものの、高額の手術が減少したため、入院診療単価は横ばいとなった。</p>			×																																				
		<数値目標>																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.6日</td> <td>15.2日</td> <td>14.4日</td> <td>◎</td> <td>△ 0.8日</td> <td>平成23年度の目標(14.6日)を前倒して達成</td> </tr> <tr> <td>一般病床利用率</td> <td>79.7%</td> <td>88%</td> <td>81.8%</td> <td>▲</td> <td>△ 6.2%</td> <td>実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。</td> </tr> <tr> <td>入院患者数 (延べ患者数)</td> <td>168,263人</td> <td>173,401人</td> <td>161,457人</td> <td>×</td> <td>△ 11,944人</td> <td>実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。</td> </tr> <tr> <td>入院患者数 (実患者数)</td> <td>10,122人</td> <td>10,738人</td> <td>10,490人</td> <td>▲</td> <td>△ 248人</td> <td>診療報酬単価については20年度を上回ったものが高額の手術が減少したため伸び悩んだ。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明	数値目標	実績	達成状況	平均在院日数	15.6日	15.2日	14.4日	◎	△ 0.8日	平成23年度の目標(14.6日)を前倒して達成	一般病床利用率	79.7%	88%	81.8%	▲	△ 6.2%	実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。	入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	173,401人	161,457人	×	△ 11,944人	実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。	入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,738人	10,490人	▲	△ 248人	診療報酬単価については20年度を上回ったものが高額の手術が減少したため伸び悩んだ。		
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明																																				
		数値目標	実績	達成状況																																						
平均在院日数	15.6日	15.2日	14.4日	◎	△ 0.8日	平成23年度の目標(14.6日)を前倒して達成																																				
一般病床利用率	79.7%	88%	81.8%	▲	△ 6.2%	実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。																																				
入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	173,401人	161,457人	×	△ 11,944人	実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。																																				
入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,738人	10,490人	▲	△ 248人	診療報酬単価については20年度を上回ったものが高額の手術が減少したため伸び悩んだ。																																				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績				評価案
22	イ 外来	診療所や小規模病院との間の患者紹介率及び逆紹介率を高め、平成23年度において、入院・外来比率1:1.7を目指します。	新型インフルエンザ発生の影響を受け、延べ入院患者数が減となるとともに、外来患者数が増となることで、未達成となった。				×
		<数値目標>					
			21年度			差引	説明
	目標項目	(参考) 20年度実績	数値目標	実績	達成状況	(21実績-21目標)	
	入院・外来比率	1:1.81	1:1.73	1:1.93	×	0.2	
延べ患者数	304,723人	299,354人	312,017人	×	12,663人		
1日当たり患者数	1,254人	1,222人	1,289人	×	67人		
診療報酬単価	8,514円	8,366円	8,862円	○	496円	外来化学療法等によるもの	
23	ウ 運営収支	経営改善により、平成21年度（計画初年度）の単年度収支で黒字基調とし、平成22年度末までに累積赤字を解消した上、平成23年度以降の更なる経営改善を目指します。	収入は減収となったが、支出を減収額以上に節減することができたため、過去2番目の水準となる単年度黒字となり、平成21年度末に、前倒しで累積赤字を解消することができた。				○
		<数値目標>					
			21年度			差引	説明
	目標項目	(参考) 20年度実績	数値目標	実績	達成状況	(21実績-21目標)	
	収益的収入	13,027百万円	13,563百万円	12,694百万円	×	△ 869百万円	
収益的支出	12,992百万円	13,383百万円	12,592百万円	○	△ 791百万円		
単年度収支	35百万円	180百万円	178百万円	△	△ 2百万円		
累積収支	△ 130百万円	82百万円	48百万円	▲	△ 34百万円		
経常収支比率	100.3%	101.3%	100.8%	▲	△ 0.5%		
職員給与費対医業収益比率	61.1%	58.2%	64.4%	×	6.2%		

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(3) 経営効率化に関する考え方				
24	ア 民間的経営手法の導入	(ア) PFI手法により整備運営事業を実施します。 (再掲：2-(5)-ア)	○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との基本設計協議や、準備工事に着手	○
		(イ) 平成23年度から非公務員型の地方独立行政法人へ移行することにより、その特徴を生かして、これまでの手法にとらわれない、機敏で柔軟性のある運営を行い、効率的な経営を目指します。	平成22年3月19日に「地方独立行政法人京都市立病院機構定款」についての市会の議決を得るとともに、評価委員会設置条例を制定するなど平成23年4月1日の法人設立に向けた体制整備などの取組を進めた。	○
26	イ 事業規模・形態の見直し	(ア) 新棟整備等によって、感染症医療や救急医療、災害時医療等の政策医療機能、がんや生活習慣病への高度医療機能、地域医療の支援機能を拡充します。	○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との基本設計協議や、準備工事に着手 ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポート設置、新館は免震構造 ・心臓・脳・血管病センター（仮称）の設置等	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
27	(イ)	新棟整備等に当たり、現在の延べ入院患者数を維持しつつ、病床を効率的に利用するとともに、安定した病院経営を行うため、現行の586床から38床減の548床（一般病床540床、感染症病床8床）とします。これを先行実施するものとして、平成21年3月に1病棟を休止し、当該病棟の看護師を他の部署へ再配置することにより、医療機能の拡充と医療安全の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年3月に1病棟を休止し548床とし、同年6月1日から、京都市病院事業条例の一部改正により、条例上も病床数を586床から548床（一般病床540床、感染症病床8床）に変更した。</li> <li>看護師全体の配置を見直す中で、病棟や救急外来で夜勤を行う看護師数を増やし、準夜帯の2人体制を3人体制に増員するなど、夜間の看護体制の充実及び夜勤時の看護師の負担軽減によって、より医療安全に配慮した体制とした。</li> </ul>	○
	ウ	経費削減・抑制対策		
28	(ア)	後発医薬品の導入促進により材料費の節減を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>後発医薬品採用数・比率 平成20年度 147品目 (9.6%) 平成21年度 151品目 (10.4%)</li> <li>後発医薬品購入金額・比率 平成20年度 75百万円 (6.1%) 平成21年度 101百万円 (8.5%)</li> </ul> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品購入金額 平成20年度 1,231百万円 平成21年度 1,181百万円</li> </ul>	○
29	(イ)	医療周辺業務の委託化を段階的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師事務作業補助者(ドクタークラーク)の配置 平成21年3月 6名 平成21年10月 8名 平成22年4月 13名</li> <li>整備運営事業の事業契約の締結(平成22年1月)</li> </ul>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
30	(ウ)	平成20年度に引き続き、平成21年度も高金利企業債の繰上償還により、利子負担の軽減を図ります。	平成22年2月に低利の企業債への借換えによる繰上償還を行い、利子負担の軽減を行った。 <平成21年度> 借換額 2,797百万円 利率5.5%→0.855% 利子負担軽減額累計 935百万円 <支払利子> 平成20年度 359百万円 平成21年度 239百万円  (参考) <平成20年度> ・借換額 17百万円 利率7.15%, 8.5%→0.954% 利子負担軽減額累計 1百万円 ・借換額 1,996百万円 利率6.9, 6.6%→1.579% 利子負担軽減額累計 761百万円	○
31	エ 収入増加・確保対策			
	(ア)	専攻医の増員により収益の確保を図ります。	専攻医数の推移 平成20年度 40名 →平成21年度 45名(過去最高)	○
32	(イ)	平均在院日数を、新棟での診療を開始する平成25年度に14日にまで短縮することを目指すことにより、入院単価の確保を図ります。	平均在院日数はプランの最終年度の目標値14.6日以上に短縮することになり、目標を達成した。 しかし、診療報酬単価については20年度を上回ったものの高額の手術が減少したため、入院診療単価は横ばいとなった。 20年度15.6日→21年度14.4日(目標15.2日) 20年度45,737円→21年度45,742円(目標48,549円)	×

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
33	(ウ)	新棟整備時と同数の一般病床数540床に対する病床利用率88%を目指します。	<p>実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずか目標に届かなかった。</p> <p>また、平均在院日数はプランの最終年度の目標値14.6日以上に短縮することになり、目標を達成した。</p> <p>実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、病床利用率は目標を下回った。(対20年度比△4.1%)</p> <p>20年度79.7%(578床ベース。540床ベースに換算すると85.3%)→21年度81.8%(540床ベース)(目標88.0%)</p>	×
34	(エ)	地域医療支援病院の平成21年度中の承認を目指すことにより、収益の確保を図ります。	<p>地域医療支援病院の承認</p> <p>平成21年9月1日</p> <p>地域医療支援病院の承認による増収(21年度)</p> <p>+59,332千円</p>	○
35	(オ)	ICU(集中治療室)を平成21年度から基準稼働することにより、収益の確保を図ります。	<p>ICUの基準稼働</p> <p>平成21年6月1日から4床稼働</p> <p>ICU稼働による増収(21年度)</p> <p>+78,260千円(特定集中治療室管理料算定実績)</p>	○
36	(カ)	DPC(診断群分類別包括評価)による診療報酬請求を平成21年度から導入することにより、収益の確保を図ります。	<p>DPC(診断群分類別包括評価)による診療報酬請求の導入</p> <p>平成21年7月1日から</p> <p>DPC導入による増収(21年度)</p> <p>+180,524千円</p>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																												
37	(キ)	未収金対策を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収納率の向上 20年度 98.0% →21年度 98.9%</li> <li>・ 新規発生未収金の減少 20年度 16,962千円 →21年度 7,913千円</li> <li>・ 未収金の合計の減少 20年度 163,890千円 →21年度 152,451千円</li> <li>・ 「京都市立病院入院分個人負担金債権管理要綱」及び「京都市立病院個人負担金に係る未収金発生防止事務取扱要綱」を策定</li> </ul>	○																												
38	オ (ア) その他	診療科別収支計算などの管理会計の充実を継続的に実施します。	診療科別の収益管理やDPC分析ソフトの導入を行った。診療科別の費用の把握などについては、今後の課題である。	△																												
<b>(4) 定員管理及び給与の適正化に関する考え方</b>																																
39	ア	定員管理の取組	<p>現行の経営形態においては、「京都未来まちづくりプラン」に基づく京都市全体の取組の趣旨を踏まえ、病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組みます。</p> <p>・ 医療周辺業務については委託化を推進するとともに、必要な職員を配置することにより、人員が増大することを抑制しつつ、業務の遂行に対応した。</p> <p>実配置 平成19年度末654名 平成20年度末665名 平成21年度末681名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種区分</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師・歯科医師</td> <td>78</td> <td>78</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>455</td> <td>459</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>91</td> <td>94</td> <td>薬+1, PT+1, 検査+1</td> </tr> <tr> <td>事務・技術</td> <td>31</td> <td>45</td> <td>独法+10, 整備+4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>調理△4, 助手△1</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>665</td> <td>681</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	職種区分	20年度	21年度	増 減	医師・歯科医師	78	78		看護師	455	459		コメディカル	91	94	薬+1, PT+1, 検査+1	事務・技術	31	45	独法+10, 整備+4	その他	10	5	調理△4, 助手△1	合 計	665	681		○
職種区分	20年度	21年度	増 減																													
医師・歯科医師	78	78																														
看護師	455	459																														
コメディカル	91	94	薬+1, PT+1, 検査+1																													
事務・技術	31	45	独法+10, 整備+4																													
その他	10	5	調理△4, 助手△1																													
合 計	665	681																														

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
40	イ 給与の適正化の取組	<p>病院機能の中核を担う医師については、全国的に医師が不足する状況のもとにあって、その確保が極めて重要であるため、初任給調整手当の増額など、引き続き給与水準の改善に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任給調整手当の引上げ 平成20年度 月額 37,500円～159,000円 → 平成21年度 月額 37,500円～249,000円</li> <li>・地域手当の引上げ 平成20年度 13% → 平成21年度 14%</li> <li>・常勤医師の平均年収（+743千円/年） 平成20年度14,320千円→平成21年度15,063千円</li> </ul>	○
		<p>職員給与費対医業収益比率が他の公立の500床以上の黒字病院と比較して高い状況を踏まえ、医業収益の増加、時間外勤務手当の縮減等に取り組むことにより、この比率の引下げを目指します。</p>	<p>入院収益が落ち込んだため医業収益は減となった。また、時間外勤務手当の縮減等に取り組んだが、患者等への説明等事務量が增大したため、縮減できなかった。</p> <p>（時間外勤務手当 ①9292,943千円 ②318,996千円） ③330,682千円</p> <p>共済追加費用及び職員手当の増加により職員給与費は増加した。また、医業収益も減少した。分子である職員給与費の増及び分母である医業収益の減少により、職員給与費対医業収益比率が増加した。</p> <p>平成20年度 61.1%→平成21年度 64.4%</p>	×
<b>(5) 一般会計における経費負担の考え方</b>				
42		<p>高度医療や感染症医療，二次救急医療等の政策医療については、効率的な運営に努めてもなお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補填するために所要の措置を講じていきます。</p> <p>具体的な積算については、総務省繰出基準による繰出しは従前どおり確実にを行うとともに、極めて厳しい本市の財政状況を踏まえ、平成21年度から当該基準外の繰出しは原則として廃止します。</p>	<p>プランにおいて定めたとおり平成21年度から基準外の繰出金は廃止した。ただし新型インフルエンザの発生により、風評によると考えられる一般患者数の減少に伴い想定外の収益の減少が生じたため、その減収補てんに係る一般会計補助金（76,000千円）を繰り入れた。</p>	△